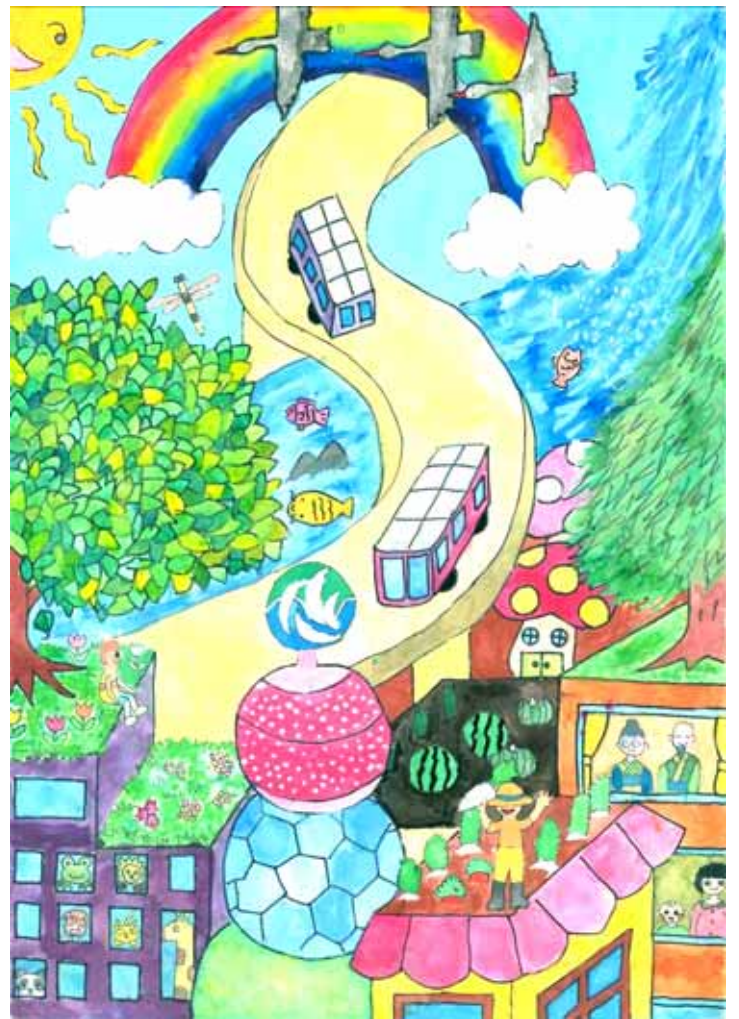


周南市 緑の基本計画 〔概要版〕



ともに育てよう
水と緑の美しいまち 周南

平成20年6月
周南市

「緑の基本計画」とは

緑の基本計画の目的

“水と緑の美しいまち”の実現に向け、緑とオープンスペースの保全・整備・活用を計画的に進めることを目的として、緑に関する総合的な取り組みと施策の方針を示す「周南市緑の基本計画」を策定しました。

緑の基本計画とは・・・

「緑の基本計画」とは、都市緑地法に基づき、周南市が策定する、都市の緑の適正な保全及び緑化に関する基本計画であり、将来の緑のあり方や施策と市民活動の実現に向けての指針を示すものです。

計画策定への取り組み経過

本計画を策定するにあたり、16歳以上の市民や将来の都市づくりを担う中学生へのアンケート、小学生へのポスター募集、地域住民によるワークショップを実施し、広く市民の皆さんからの意見を伺いながら、公募による市民が参画した策定委員会により策定しました。

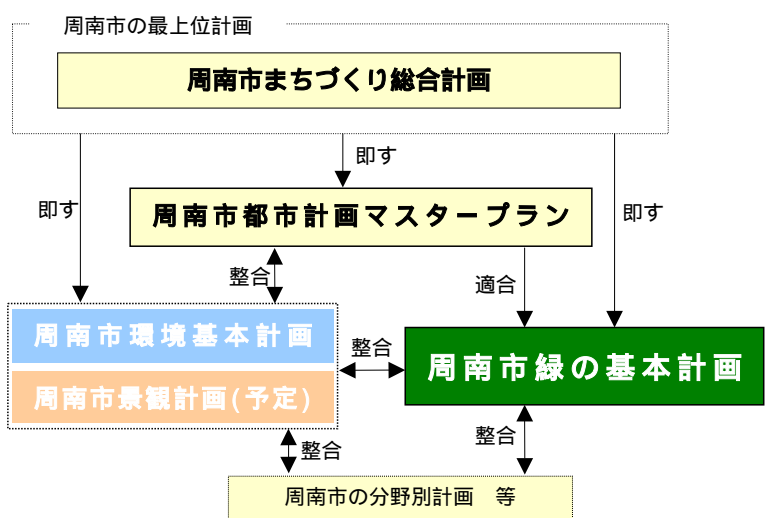


【ワークショップの風景】



【募集ポスターの表彰式】

計画の位置づけ



計画対象区域

周南市全域 (65,692ha)

計画期間

計画目標年次 平成40(2028)年

緑の役割

緑は、人々の潤いのある生活・営みの創出の中で、美しい景観を構成する空間的な役割だけでなく、地域の歴史・風土、生活文化の形成、人々の心身の健康の増進といった、豊かで質の高い生活を送るために重要な役割を担っています。

本計画においては、4つの系統に分類した緑の6つの役割に着目しています。



緑の現況と課題

周南市は、北側に連なる中国山地の山々やそのふもとに広がる田園、樹林地、そして南側に位置する美しい瀬戸内海とその島々といった豊かな自然の緑に囲まれています。また、都市地域では公園・緑地や街路樹などの施設の緑によりうるおいのあるまちなみを形成しています。

～自然の緑～（保全系の緑）

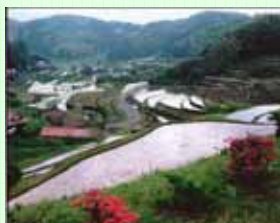
自然の緑は、山間地や瀬戸内海の島々、市街地周辺に広がる森林、田園、水辺などの緑があります。



【烏帽子岳ウッドパーク】



【瀬戸内海への眺望】



【四熊の棚田】

～施設の緑～（創出系の緑）

施設の緑は、公園・緑地や岐山通・御幸通に代表される街路樹、住工の緩衝帯となる緑などがあります。



【永源山公園】



【岐山通の街路樹】



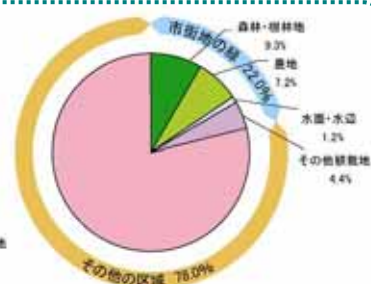
【住工を分離する緑地帯】

周南市の緑の量は・・・

周南市の緑は、市域面積の約90%を占めており、その大部分が、「保全系の緑」です。市街地の緑は約22%で、そのうち約8割が「保全系の緑」、残りの2割が「創出系の緑」です。



【市域全体の緑被率】



【市街地の緑被率】

緑に関する市民の意向（市民アンケートより）

貴重な自然を守り育てる意識が高くなっています。

公園・緑地に対する愛着が強く、親しみを感じています。

公園に求められる多様なニーズとして、散策道、遊具、休憩施設の充実やスポーツ、健康づくりのための施設、親水性のある公園、防災機能を持った多様な機能を有する公園が挙げられます。

公園・街路樹などの維持・管理に関する活動への参加意欲が高くなっています。

緑の保全と創出に関する総合的な課題

周南市の緑の状況や緑に関する市民の意向を受けて、緑の保全と創出に関して周南市が取り組むべき課題を5つに整理しました。

5つの課題

都市の骨格となる緑の保全・育成と自然との共生

市街地における緑の充実と多様なニーズに応える緑づくり

緑をいかした防災機能の向上

地域資源の保全と活用による魅力の向上

市民と行政のパートナーシップによる緑づくり

緑の都市づくりの目標と方針

上位関連計画における位置づけ、市民アンケート等において示された、将来の周南市の緑に期待される役割等を受けて、計画の基本理念と将来像、緑地の確保目標水準を設定しました。

計画の基本理念

ともに育てよう 水と緑の美しいまち 周南

～ 緑の将来像 ～

『周南市では、美しくうまいのある“水と緑”が守られ、いかされ、つながっています。そして周南市民は、自然と共生しながら、“水と緑”に囲まれた空間で、安心・安全、快適・健康に暮らしています。』

人と自然がともに暮らせるうまいのあるまち
自然とふれあい健康で快適に暮らせるまち
災害に強く安心・安全に暮らせるまち
地域の個性や資源を大切にしたい美しいまち
市民協働による地域間の連携がとれた活力のあるまち

将来像の実現に向けて

将来像や目標の実現に向けて、基本方針から推進のための施策まで、一貫した流れで体系づけます。

5つの基本方針

10の基本方向

施策

目標の達成に向けて

緑地の確保目標水準の設定

緑地の確保目標水準

市街地面積に対する割合

622ha (14%) → **概ね 746ha (17%)**

都市計画区域面積に対する割合

17,593ha (70%) → **概ね 18,000ha (72%)**

都市公園等の目標水準

都市公園の目標水準
(都市計画区域に対する目標)

12m²/人 → **概ね 20m²/人**

都市公園等の目標水準
(市域全体に対する目標)

18m²/人 → **概ね 30m²/人**

都市公園等は、児童遊園やちびっ子広場、学校グラウンド等公共施設緑地を含めたものをいいます。



5つの基本方針と10の基本方向に沿って、 具体的な施策を進めていきます

緑の将来像の実現や目標の達成に向けて、5つの基本方針と10の基本方向を掲げ、これらに沿って周南市が取り組むべき施策を進めていきます。

基本方針 1

人と自然がともに暮らせるうるおいのあるまちづくり

基本方向 都市の骨格となる緑の保全

都市の骨格を形成している森林・樹林地、農地、水辺といった「水と緑」を後世に伝えていくために、適切な維持・管理と指導・誘導により、将来にわたり保全していきます。

施策

森林の保全
農地の保全
水辺の保全



【太華山からの眺望】



【中須北地区の棚田】

基本方向 自然環境との共生に配慮した緑の保全、育成

森林・樹林地や農地、水辺等を中心に、在来生物の保全や地域の生態系の維持・保全など多様な生物の生息・生育環境の保全・育成や移動空間の確保を含めたビオトープネットワークの形成と自然環境に配慮した循環型の都市づくりを進めます。

施策

多様性のある生態系の保全
ビオトープネットワークの形成
循環型の都市づくり



【ビオトープの拠点となる西緑地】



【緑のリサイクル事業】

基本方針 2

自然とふれあい健康で快適に暮らせるまちづくり

基本方向 利用者の多様なニーズに対応した緑づくり

子どもから高齢者まで、また、日常的な利用から広域的な利用まで、多様なニーズに対応した公園・緑地等の整備・充実を図ります。

施策

求められる多様なニーズへの対応
利用しやすい公園づくり
質の高い緑の管理手法の確立



【ワークショップによる公園づくり】

基本方向 身近なオープンスペースの確保

都市公園を中心として、市民の多様なニーズに対応した身近なオープンスペースの確保を図ります。

施策

公園・緑地の適切な配置
身近なオープンスペースの充実
公共グラウンド等の活用



【周南フレンドパーク（周南緑地）】

基本方向 緑によるうるおいのあるまちなみの創出

道路や河川、学校等の公共空間や住宅地、商業・業務地、工業地といった民有地の緑化を促進し、緑豊かなうるおいのあるまちなみの創出を図ります。

施策

公共空間の緑化
民有地への緑化誘導



【住宅地の緑化（秋月団地）】

基本方針 3

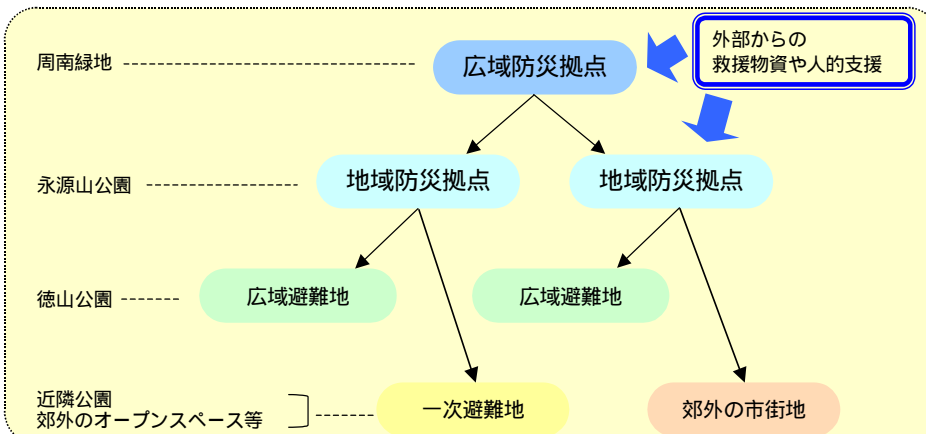
災害に強く安心・安全に暮らせるまちづくり

基本方向 安心・安全に暮らせる緑の創出

施策

災害時の避難地、避難路の配置
災害を軽減、緩和する緑地の配置
自然災害を防止する緑地の配置

【防災拠点等の配置の考え方】



市民が安心・安全に暮らせるまちづくりを進めるため、防災拠点となる公園・緑地の機能の充実や、火災の延焼等を軽減、緩和する緑地、自然災害からまちを守る緑地の配置に努めます。

基本方針 4

地域の個性や資源を大切にしたい美しいまちづくり

基本方向 緑をいかした市街地のイメージアップ

都市・地域の“顔”となる地区を中心に、緑化による緑をいかした都市の魅力の向上を図ります。

施策 中心市街地におけるにぎわいの創出
緑をいかした地域の“顔”づくり



【周南冬のツリーまつり】

基本方向 地域の個性や資源の保全・活用

自然や歴史・文化といった地域の個性や資源をいかし、周辺の緑と融合・調和した魅力の創出を図ります。

施策 優れた自然資源の活用
歴史・文化的資源を活用した魅力の創出



【旧山代街道のまちなみ】

基本方針 5

市民協働による地域間の連携がとれた活力のあるまちづくり

基本方向 協働による緑のまちづくりの推進

市民との協働による緑化活動を積極的に展開するため、市民主体の活動への支援やその仕組みづくり、地域間の連携による都市と農村の交流促進、そして、これらの様々な活動に向けた人材の育成を図ります。

施策 参画と協働のまちづくりの推進
緑化活動・花いっぱい推進
緑を通じた都市と農村の交流促進



【ボランティアによる花壇づくり】

基本方向 緑を守り、増やすための人づくり

緑の保全、創出に向けた緑化に関する人材の育成を図るため、各種媒体を通じて市民の緑化意識の高揚・啓発や緑化に関する知識・技術の普及を図ります。

施策 緑化意識の高揚・啓発
緑に関する知識・技術の普及
緑や環境に関する学習



【総合学習における植物の観察】

緑化重点地区

- ・緑化重点地区は、緑地の保全及び緑化の推進を重点的に図る地区です。
- ・周南市では、**永源山公園周辺地区**・**中心市街地周辺地区**・**周南緑地周辺地区**の3地区を選びました。
- ・緑化重点地区では、各種事業を積極的に展開し、緑の基本計画が目指す「緑の将来像」をモデル的に具体化します。
- ・さらに、緑化事業を展開することにより、市民の緑化意識の高揚を促すとともに、緑化重点地区自体が周南市の骨格的な緑を構成する一部となります。

地域別緑の配置方針

地域別緑の配置方針では、周南市を7つの地域に区分し、それぞれの地域特性や、アンケート調査・市民ワークショップによる地域住民からの提案、地域の主な課題を踏まえて、各地域の緑の将来像などを示しています。

都心部地域：周南市の都市機能が集積しており、計画的な市街化により街路樹や都市公園などが整備され、周辺の街並みと調和した憩いと安らぎの空間を創出しています。また、周南市を代表する永源山公園、徳山公園、周南緑地は多くの市民に親しまれているスポーツ・レクリエーション等の拠点となっています。

【緑の将来像】

『うるおいのある緑により、安心・安全、快適に暮らせ、文化と活力があふれ、にぎわいのあるまち』

西部地域：夜市川流域で、黒石山、観音岳、城山、飛松山、昇仙峰といった山林に囲まれ、周南市の代表的な観光地である湯野温泉が位置しています。

【緑の将来像】

『川と“いで湯”で結ぶ緑豊かな魅力あるまち』

北西部地域：富田川沿いに開けた地域で、四熊ヶ岳をはじめとする山林に囲まれ、北側には菊川湖が位置しています。地域には美しい棚田が存在し、伝統的な風景が広がっています。

【緑の将来像】

『水と緑と共に暮らし、憩いと安らぎのあるまち』

東部地域：烏帽子岳等の山林に囲まれ、地域の東南一帯は石城山県立自然公園に指定されています。また、三丘温泉や呼鶴温泉などの観光地が存在しています。

【緑の将来像】

『憩いとやすらぎのある緑のなか、コミュニティ豊かに暮らせるまち』

島しょ部地域：瀬戸内海の島々と、大島半島、杵島から構成された地域で、大津島には人間魚雷「回天」の発射訓練基地跡と記念館があり、保養・観光ゾーンとしての条件を備えています。

【緑の将来像】

『美しい海と山と歴史による交流をいかし、自然を大切に暮らすまち』

北部地域：高瀬湖、向道湖、菅野湖といったダム湖や、国の指定文化財であるナベツルの渡来地、大玉スギなどの貴重な自然資源と、観光農園等の自然とふれあえる空間が多く存在しています。

【緑の将来像】

『恵まれた水と緑にいだかれ、人と動植物が共生し、自然とふれあいながら暮らせるまち』

中山間部地域：市域の最北部に位置し、周囲は山口県百名山に選ばれた雄大な山々に囲まれています。また、石船温泉やせせらぎパークなど観光レクリエーション施設が存在しています。

【緑の将来像】

『高原の豊かな緑と清流のもと、自然と歴史を味わう癒しのまち』

表紙のポスターは、「周南市都市計画マスタープラン及び緑の基本計画」策定にかかる小学生作品募集において、緑の基本計画賞を受賞された作品です。題名「自然と共に生きる」岐山小学校6年 石飛真結さん



周南市緑の基本計画【概要版】

平成20年(2008年)6月 山口県周南市

お問合せ先 周南市 都市開発部 都市整備課

〒745-8655 山口県周南市岐山通1丁目1番地

TEL (0834) 22-8402 FAX (0834) 22-8432

E-mail: toshisei@city.shunan.lg.jp